

病害虫発生予報利用の手引き

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

I. 情報の種類

国と都道府県は農作物の病害虫についての発生予察を行わなければなりません(植物防疫法)。三重県では病害虫防除所がその役を担っていて、予察の結果は次のような**発生予察情報**(予報、警報、注意報、特殊報)及び**防除技術情報**として発表します。

発生予報:定期的に発表する向こう1か月間の病害虫発生動向の予測です。

本県では3月～8月と10月の各月の下旬に発表します。本手引きは主にこの情報についての解説です。

発生予察警報:重要な病害虫の大発生による甚大な被害が予想され、早急な対策が必要と判断された場合に発表する極めて重大な情報です。

発生予察注意報:警報を発表するほどではないが、重要な病害虫の多発生が予想され、早めの防除が必要な場合に発表します。

発生予察特殊報:本県初の病害虫が確認された場合や、従来の病害虫の加害状況が特異的に変化した場合に発表します。初発見であることに意義のある情報なので、原則として県下の分布状況は不明であり、また防除技

術が確立していない場合もあります。その意味において概して指導者向けの情報です。

防除技術情報:その他の重要な情報として適宜発表します。注意報ほど重大でない多発生の場合、1 か月を超える長期予報、あるいは農薬使用上の注意が生じた場合など、いろいろな情報を含みます。

これらの発生予察情報は病害虫防除所ホームページに掲載し、県内の農協、市町および農業関係機関に公文書として送付するとともに、技術情報以外は県庁記者クラブに所属する報道機関に発表します。

II. 情報の使い方

病害虫発生予察情報が発表された時には、ぜひ病害虫防除所ホームページをご覧ください。ホームページの利点は次のとおりです。

- eメールサービスを受けている場合は、発表と同時に閲覧できること。
- ホームページには他にも関連する記事・グラフがあること。
- 写真はカラーで見られること。
- 過去の情報も見られること。

1) 営農担当者

農家への直接の口頭指導だけでなく、農薬販売窓口と連携し、必要なページをコピーして窓口・掲示板に張り出したり、農家に配布するなどしてご利用ください。

公文書は本所、本店にしか送付しませんので、回覧・転送に時間のかかる支所、支店の担当者の方はぜひeメールサービスに登録してください。情報はスピードが命です。

2) 農業者

農業者の方は病害虫防除所ホームページで見てください。eメールサービスに登録すれば、情報発表を見落とすおそれなくなります。

Ⅲ. eメールサービスとは

1) 目的

3月～8月と10月の各月の下旬頃の病害虫発生予報及び不定期の注意報・警報・特殊報、技術情報が発表されたことを、eメールにより速やかにお知らせするものです。

2) 誰が登録できるの

インターネットを利用できる環境下であり、eメールを受信できる方は誰でも登録できます。登録は無料です。

携帯電話のeメールでも登録できます。

3) 登録すると

病害虫発生予報・注意報・警報・特殊報、防除技術情報が発表されたことをeメールにより配信しますので、パソコンのインターネットを通じて速やかに情報の収集ができます。通信料は登録者様のご負担となります。

4) 登録方法

三重県の総合メールマガジン管理配信システムを利用して配信しています。防除所の解説頁を経由するか、直接配信システムを通して登録してください。

防除所: <https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

配信システム: https://www1.pref.mie.lg.jp/s_form/mag/17/entry.asp?CTR=NEW

5) 登録の取り消しは

ご希望により、いつでも登録を取り消すことができます。また、再登録もいつでもできます。

6) 個人情報の取り扱い

登録していただいた個人情報については、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)に基づき適切に取り扱います。

IV. 予報の年間計画

予報の対象とする作物と病害虫の年間計画です。以下の計画以外に、病害虫の発生が問題になる場合には、注意報や技術情報として臨時に発表することがあります。

●は発生時期の予察、○は発生量の予察。予報の発表は各月下旬頃です。

作物	病害虫	1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号
		4月	5月	6月	7月	8月	10月	3月
イネ	葉いもち		●○	○				
	穂いもち			●○	○			
	紋枯病			●○	○			
	白葉枯病			○	○			
	斑点米カメムシ類			○	○	○		
	イネクロカメムシ		○	○	○			
	イネミズゾウムシ	●○	●○					○
	ツマグロヨコバイ			○	○	○		
	セジロウンカ			●○	○			
	トビイロウンカ				○	○		
コムギ	赤かび病	○						○
ダイズ	紫斑病				○			
	コガネムシ類				○			
	ハスモンヨトウ				○	○		
	吸実性カメムシ類				○	○		
カキ	そうか病	○	○	○				○
	黒点病		○	○	○	○		
	かいよう病	○	○	○	○	○		○
	ミカンハダニ	○	○	○	○	○	○	○
	チャノキイロアザミウマ		○	○	○	○		

作物	病害虫	1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号
		4月	5月	6月	7月	8月	10月	3月
ナシ	黒星病	○	○	○				○
	赤星病	○						○
	ハダニ類	○	○	○				
	アブラムシ類	○						
ブドウ	べと病		○	○				
果樹共通	カメムシ類	○	○	○	○	○		
チャ	炭疽病		○	○	○	○		
	もち病		○					
	カンザワハダニ	○	○	○	○	○	○	○
	チャノホソガ	第1世代 ○	第2世代 ○	第3世代 ○		第5世代 ● 第4世代 ○		越冬世代 ●
	チャノミドリヒメヨコバイ		○	○	○	○		
	チャノキイロアザミウマ	○	○	○	○	○		
	クワシロカイガラムシ	○		○		○		
	チャノコカクモンハマキ	○		○	●○			
トト	疫病						○	
仔ゴ	灰色かび病							○
	うどんこ病		○	○			○	○
	炭疽病		○	○	○	○	○	
	ハダニ類	○		○			○	○
ハツサイ	白斑病						○	
キャツ	菌核病							○
	黒腐病						○	
ネギ(青)	ネギコガ		○	○			○	
	シロイチモジヨトウ					○	○	
ネギ(白)	ネギコガ			○	○		○	
	シロイチモジヨトウ				○	○	○	
野菜共通	コナガ		○				○	
	ハスモンヨトウ						○	

V. 予報の各項目の説明

内容は5つに分かれているので、以下、その区分ごとに内容の見方と使い方を説明します。

1. 「予報の概要」について

発表時点から向こう1か月の病害虫の発生動向についての予察を一覧表にしています。

この頁をコピーするだけでも、簡単な指導に使えます。店頭、掲示板への貼り出しにもお使いください。

2. 「予報」について

作物の病害虫ごとに、予報内容(発生量、発生時期)、予報の根拠、防除対策を記載しています。

1) 発生量(平年比)

発生密度の平年値(原則、10年間のデータの平均値)からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との相対的な比較を示す指標のため、実際の発生量と感覚的に合わない場合があるので注意してください。

		平年値				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

2) 発生時期(平年比)

防除適期の早遅の判断に使います。従って、発生時期がわかってもあまり防除時期の参考にならない病害虫では、この予察はしません。

平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。平年値は原則として10年間のデータの平均値です。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早		平年並				やや遅			遅			

なお、発生時期が毎年大きく変化するイネのイネミズゾウムシ、セジロウンカは、本県では日数の基準をこれより大きく取り、半月ほどのズレで「早」または「遅」の評価にしています。

3. 「予報の根拠」について

「発生量(平年比)」と「発生時期(平年比)」について、なぜそのように予察したかを「予報の根拠」で説明します。

1) 要因の考え方

発生量の根拠としての(+)は発生量増加の要因、(-)は発生量減少の要因と考えられるものです。(±)は平年並の要因です。

予察の評価は、(+)と(-)の数の差ではなく、各々の要因を個々に経験的な重み付けをして総合的に判断しています。

2) 根拠における気象予報の取扱い

気象台の「1か月予報」は下図のような確率表示で発表されていて、10%、50～70%などは統計的に有意性が高いとされています。病害虫の発生密度を平年値からの多い少ないで判断する場合は、この有意性の基準を重視しています。30～

40%の場合は有意性がないものとして、根拠には採用しません。

降水量	少ない 10	平年並 40	多い 50
-----	-----------	-----------	----------

ただし病害虫によって、特定の時期(開花期、孵化期など)の気象条件が特に重要である場合には、確率表示の基準には従いません。(例:コムギ赤かび病については、開花期に雨が降るかどうかが重要であり降雨量の平年比はあまり重視しません)

3) 調査地点

「予察根拠」の説明では調査地点を次のように表記しています。

表記	括弧	調査地点
予察灯 ()	畑・松阪市 水田・松阪市 伊賀市 紀北町 御浜町志原 御浜町神木	農業研究所 農業研究所 伊賀農業研究室 紀北町島原 紀南果樹研究室 御浜町神木
県予察ほ		農業研究所、紀南果樹研究室、茶業・花植木研究室のほ場
県予察ほフェロモントラップ		農業研究所(野菜及び果樹害虫) 紀南果樹研究室(カンキツ害虫) 茶業・花植木研究室(茶害虫) 林業研究所(果樹カメムシ類)
県予察ほ誘引粘着トラップ		茶業・花植木研究室(チャノキイロアザミウマ)
巡回調査ほ場		一般農家のほ場を特定し、月1回ずつ巡回して調査
一般ほ場		普及指導員や病害虫防除員からの情報等

所在地	農業研究所：	松阪市嬉野川北町
	茶業・花植木研究室：	亀山市椿世町
	伊賀農業研究室：	伊賀市森寺松ヶ谷
	紀南果樹研究室：	御浜町志原
	林業研究所：	津市白山町二本木

4. 「防除対策」について

病害虫の特徴や防除方法に関する説明です。向こう 1 か月の防除の参考にしてください。

5. 「気象データ」について

名古屋地方気象台による東海地方の1か月予報のデータを引用しています。今後の防除計画の参考にしてください。天気予報は刻々と変化していますので、気象台からの新しい情報に留意してください。

病害虫発生予察の根拠にも使っています。